

No20 生活中心主義 教科中心 作業と遊び

義高 互

30 年前 小出進先生 の生活中心主義を見るため
千葉大付属の公開研究に通った時期がありました。
私も 30 歳そこそこで特支学校に勤務していた時で
す。

千葉大付属ではあまりのスケールの大きさに目を奪
われていました。

なんと作業では学習で家を一軒立てていたのです。
作業については別に述べます。

公開研究では毎年 千葉大小出門下の生活中心主義
と横浜国大の教科主義が激論を交わしていました。
論争が面白くて参加していました。30 年前の私の
記録をもとに提示します。

大まかには千葉大の方々は遊び、労働という日常
生活に即した活動で育てるべきだ、という考えです。
横浜国大は人が学ぶことは教科として確立している、
という考えでした。特支学校でも 教科の内容を柔軟
にして教科で学ぶべき、との主張はどちらも長短
がありました。

この場では 30 年前の千葉大の主張を中心に横浜国
大の反論と私的意見を加えて提示します。

観点は・遊ぶ・学ぶ・、とは何か、という点です。
通常は就学まで 幼児は遊びと勉強の区別なく活動
します。就学からは 自分の向上につながる活動
学びとそれ以外の余暇活動 遊びに分化されます。
就労では 生活するのに必要な 労働 自分の向上の
ための学び その以外の余暇 遊び にさらに分割
されます。

生活中心主義の学びでは 就学で 小学部で遊び
と生活単元を 中学部以降は 作業と生活単元を中
心に行います。

生活の中にある 遊び、就労の準備となる 作
業中心に 子供を育てます。実際に体験して学ぶ生
活の中の体験学習を重視します。

また作業では物づくりを主に行い。直接 社会との
やり取りが難しくても、作った製品を介して社会に
貢献し社会から評価されることを重視します。

生活中心主義

生活中心主義

小出 進氏 (1933 - 2014)

千葉大名誉教授
付属養護学校長

植草大学長



30年前の千葉大付属養護学校公開研究会
(写真撮影:義高)

☆労働 ⇨ 学び 遊び

生活に必要な 分離

就労

☆学び ⇨ 遊び

成長につながる 分離

就学

↑

遊び・学び・労働混在

社会への参加・就労の柱

生活中心・教科中心共通

ものづくり

製品を通して

社会に貢献し評価される

作業学習はその準備の学び

しかし教科中心の考え方は、また違います。
日本では学びのために必要なことは教科として体系化している。という一般的な考えを重く見ます。
特支学校でも教科の中で体験学習を取り入れたり、個性を配慮したりしていく。
学ぶべき時間と内容を明確にして、作業も立派な教科として学ぶ、という考えです。
生活中心主義では 学びと遊びの分離がない、緩んだ活動の効果に疑問がある。
教科として学ぶ内容を明確にしなければ、何を学んでいるのか教師も子供も目的が曖昧な活動になる。というのです。
一方 千葉大でも 教科主義では 特支学校で意欲・能力の面で教科学習が成立するか疑問がある。となっていました。
私は当時、どちらになるか、融合するか興味があり、公開研に通って議論に参加していました。
過去の議論ですが、皆さんは どう考えますか？

END

生活中心主義 (1990年当時)

☆ 中学部では作業 (+生活単元)

☆ 小学部では遊び (+生活単元)

実際に体験して学ぶ生活の中の
体験学習を重視

30年前の特殊教育論争

千葉大付属・生活中心主義



遊び・労働など
生活の中にある
体験で育てる

横浜国大・教科中心主義

学ぶ事は教科で体系化
教科の中で体験を(作業も教科として)
含め柔軟に学んでいく

生活中心主義の課題

遊・学の分離が曖昧＝効果は？

何を学ぶか＝教師も子供も曖昧？

教科中心主義の課題

特支学校で意欲・能力面で
教科学習が成立する？